

(様式1)

校 種	小・中 どちらかに○	学校番号	4	学校名	宇都宮市立陽南中学校
-----	---------------	------	---	-----	------------

令和7年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

本校では、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等に示された教育の目標や内容及び本県の教育行政の方針、さらに宇都宮市民憲章、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、陽南地区の教育的・文化的環境、本校生徒の実態等を考慮し、健康で明るく気力に満ちた21世紀を担う健全な生徒の育成のために、次の目標を設定する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 1 気力・体力・活力に満ちた生徒
- 2 心情豊かで責任感の強い生徒
- 3 自ら学び、創造性に富む生徒

生徒指標

「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせるとともに、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高め、多様な人々と協働しながら自分と社会の未来を拓き、持続可能な社会の創り手となることができる生徒を育成する。

また、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育9年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。

こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校のデジタル化を進めるとともに、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

〔目指す教師像〕

- ・組織人としての責任感や協調性をもち、互いに高めあう教師
- ・優れた専門性と指導力をもつため、学び続ける教師
- ・人間性豊かで信頼される教師
- ・探求心をもち、新たな課題に対応できる教師

3 学校経営の方針

〔陽南地域学校園教育ビジョン〕

主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育

テーマ：生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成

- (1) 学習指導要領や第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 地域や世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、身につけた力を地域や社会

のために活用できる特色ある学校づくりと教育課程の編成に努める。

- (3) 生徒の実態をふまえた個に応じた指導など、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (4) 共感的な生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (6) 健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康的な生活を送るための基盤づくりに努める。
- (7) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

【キャリア教育の視点】

- (8) 保護者や関係機関等との連携を十分に図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を図る。
- (9) 陽南地区の児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成を目指し、義務教育9年間を見通した系統的な指導や教職員の交流を通して、小中一貫教育の充実を図る。
- (10) よき伝統や教職員の創意工夫を生かしたり、地域の教育資源を積極的に活用したりする教育活動を推進するなど、特色ある学校づくりに努める。
- (11) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、地域協議会の活動の活性化を通して地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- (12) 教職員が、生徒と十分かつ適切に向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスの実現のため、業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【教職員の働き方に関する視点】

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ① 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- ② 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- ③ 新しい時代に生きる生徒に必要な資質・能力の三つの柱である「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- ④ 各教科・領域の指導に当たっては、令和3年度から全面実施された学習指導要領を踏まえ、生徒の実態に応じ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、一人一人の生徒が分かる授業の展開に努める。
- ⑤ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達段階の特性を考慮して編成する。
- ⑥ 地域や学校の実態を考慮し、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- ⑦ 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

(2) 留意点

- ・ 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で再構築する。(全教科・領域を通した話し合い活動の充実、主体的に学びに向かう集団作り、言語環境の整備等)
- ・ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、国際理解教育、人権教育、環境教育等においてSDGsとのカリキュラムマネジメントを図り、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進を行う。【教科横断的な視点】

- ・ 小学校及び中学校が一貫した教育課程の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行えるように努める。
- ・ 保護者や地域の声を、学校評価等を通して把握し教育課程の改善に生かす。
- ・ 地域の教育力を活用するなど、必要な人的又は物的な体制を確保する。
- ・ 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることに努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（１）学校運営

① 学力向上

- ・ 基礎基本の確実な習得
- ・ 授業改善を目指した GIGA スクール構想の推進
- ・ ソサエティー5.0 を生き抜く力を育てる

② 見通しをもつ力（＝学びに向かう力）の育成 ～学校全体の教育活動を通して

- ・ 特に学習指導・生徒指導・キャリア教育・生徒会活動との関連を図る

③ SDGS カリキュラムマネジメント ～持続可能な社会の担い手を育てる

- ・ 各教科・領域・生徒会とSDGsの関連
- ・ 地域未来会議 地域と生徒会の関連を図る（地域が目指す生徒像の策定）
- ・ SDGs プロジェクトチームの支援のもと、生徒会活動の活性化を図る
- ・ 国際理解教育の推進

④ 誰一人取り残さないウェルビーイングな学校

- ・ ウェルビーイングの深化（個から場へ）
- ・ 教育相談、不登校対策の充実
- ・ 多様性を認める
- ・ 地域未来塾
- ・ チーム学校 業務改善 働きやすい職場

⑤ その他

- 地域ボランティアへの参加など地域との連携を図った特色ある学校づくりを推進する。
- 小中学校間で課題の共有を図り、学校園全体で課題解決に取り組む小中一貫教育を推進する。
- ・ ホームページ、各種たよりの発行やPTA・地域協議会への情報提供などを通して、家庭や地域との連携を一層深める。
- ・ 部活動の適正な実施など業務の適正化を図るとともに、「働き方改革推進チーム（仮称）」を組織し、ボトムアップによる働き方改革を推進する。
- ・ 業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。

（２）学習指導

- ・ 「学業指導」の理念や「宇都宮モデル」を踏まえ、「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を展開・改善し、生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努めるとともに、一人一授業の公開を基本とした研修に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習を実施することにより、学力の基礎・基本の定着を図る。
- ・ 特別の教科「道徳」に対する理解を深め、道徳科の目標を具現化する授業の在り方や評価等について研究を推進する。
- 家庭学習の充実に向け、タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を

図るとともに、A I 型ドリルの積極的な運用に努める。

- 「宮・未来キャリア・パスポート」を活用し、系統性のある継続したキャリア教育（進路指導）の取組に努める。

（3）児童生徒指導

- 不登校対策プロジェクトチームの運用を明確かつ活性化させるとともに、家庭、その他関係機関と十分に連携を図った教育相談体制を構築し、不登校生徒の減少に努める。
 - ・ いじめ防止にむけた効果的な取組を意図的・計画的に実践し、いじめの起こりにくい環境を構築するとともに、積極的に取組の公表を行う。また、いじめ調査などの充実を図り、いじめの早期発見・早期対応が機能する指導体制の充実を図る。
 - ・ 問題行動等の発生に対して、学校全体で情報の共有を図り、組織的に対応する体制を一層強化する。（報告・連絡・相談の徹底）
- 外部講師等を招聘するなどして、スマートフォンなど情報機器の適切な使用について指導の充実を図り、ネットトラブル等の未然防止に努める。

（4）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・ 交通安全教室などを実施するなどして、交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ、自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。
- ・ 体力の向上や心身の健康の保持増進に心がけ、自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。
- 食に関する指導の一層の充実を図るとともに、生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式 2～4 参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

様々な体験活動を通じて、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 学校行事

- ◇ 農業体験学習（学校農園）
- ◇ 文化祭合唱コンクール
 - ・ 働く人に学ぶ

② 生徒会活動、開かれた学校づくり

- ・ 地域未来会議の開催（生徒会と地域協議会の協働活動）
- ・ 生徒会専門委員会において地域の方々と活動
- ・ 生徒会を中心としたあいさつ運動
- ・ あいさつキャラクターとあいさつ運動のぼり旗の作成
- ・ 各種地域ボランティア活動

③ 国際理解教育の推進

- ・ 令和 5 年度に行ったユネスコ事業「インド教職員招へいプログラム」をもとに、現地インド学校と本校間での、生徒および教職員の相互交流を推進する。（総合的な学習の時間、英語科授業において計画）

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

① 基本的考え

いじめや不登校、学力の向上など、学校が抱える諸課題は、家庭や地域社会の理解と協力がなければ、より良い学校運営ができない状況である。そこで、学校の目指す目標や取り組みについて「魅力ある学校づくり地域協議会」や家庭に十分な情報を提供するなどして理解を得た上で、学校に対する協力を得ていく。

② 主な取組

- ・ 地域未来会議を開催し、「地域が目指す生徒像」を明確にし、学校と地域が共有する。
- ・ 地域未来会議において生徒会と地域協議会との話し合いの場の設定
- ・ 生徒会専門委員会の常時活動で地域の方々と活動する。
- ・ 生徒会執行部、中央委員会を主体とした「地域とつながる学校」を推進する。
- ・ 協議会での情報提供と意見交換の場の設定
- ・ 地域指導者による「地域未来塾」を開設し、学習支援を行う。
- ・ 学校だよりや学校ホームページでの学校の取組を周知する。
- ・ 地域行事への参加や生徒のボランティア活動を推進する。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

陽南地域学校園では、「主体的に活動できる子どもを育む小中一貫教育～生きる力の基本となる知識・技能とコミュニケーション能力の育成」を教育ビジョンに、7部会を設定し生きる力を持つ児童生徒を育成する。今年度は特に「自分の考えを書いて伝える活動の充実」「SDGs推進の考え方の共通理解と推進」「授業力向上プロジェクト研究の推進」「授業におけるICT活用推進（デジタルシティズンシップ教育を含めて）」「副校長を各部長として組織力アップ」を掲げて研究を行う。

② 主な取組

- ・ 生徒会と児童会とのリモート会議（ひまわりネット）
- ・ 地域学校園小中学校で共通でヒマワリを栽培し、できた種を地域の施設に配布
- ・ 小学校高学年における教科担任制への支援
- ・ 中学校から小学校への乗り入れ授業（中1ギャップの解消）
- ・ 小中合同お弁当の日
- ・ 学校図書館交流（図書委員会で集めた古本の提供）
- ・ 児童生徒指導強化連絡会、不登校対策連絡会議
- ・ 小中合同あいさつ運動 など

(3) 不登校対策

① 基本的考え

不登校を生まないために、生徒一人一人のよさを認め励まして自己有用感を高め、互いを尊重し合う温かな人間関係作りに努める。また、学校だけでなく、SC、MS、関係機関との連携を図り、学校のチーム力を高めて指導体制を強化する。

② 主な取組

- ・ すべての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進【誰一人取り残さない学校】
- ・ ウェルビーイングの深化（個から場へ、学校全体を良い環境へ）
- ・ 不登校を出さない指導の展開
- ・ 校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
- ・ S C、M S、関係機関との連携
- ・ 別室登校支援の充実

（４）G I G Aスクール構想

① 基本的考え

G I G Aスクール構想の実現を目指し、1人1台端末を文具の一つとして授業はもとより日常生活に活用できるよう、着実に取組を進める。また、今後は一人一台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現と「I C Tを活用した授業改善」を進めていく。

一方、デジタルシティズンシップ教育推進のため、「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」に基づき、発達の段階に合わせてより良い情報の使い手となるための教育を体系的・継続的に指導する。

② 主な取組

- ・ G I G Aスクール構想推進プロジェクトチームを中心とした取組
- ・ 教科指導におけるI C T活用（スクールタクトを中心としたアプリの活用）
- ・ ソフト面、ハード面、指導体制の確立
- ・ 学校における学習の個別最適化を図るための環境づくり
- ・ 宇都宮モデルを活用し、協働的な学習を推進する。
- ・ 生徒の情報活用能力の育成
- ・ 教師に求められるI C T活用指導力等の向上
- ・ 特別支援教育におけるI C T活用
- ・ 家庭学習におけるI C T活用
- ・ A I型学習ドリルの活用
- ・ デジタルシティズンシップ教育の推進

（５）宇都宮学

① 基本的考え

地域の教育資源や資料を活用し、伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動や、郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土等について理解する学習を行うなどして、生徒が郷土への愛情と誇りをもてるようにする指導の充実を図る。

② 主な取組

- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会の行事との関連（歴史探訪ウォーキングなど）
- ・ 宇都宮市「SDG s未来都市」との関連を図る。
- ・ 宇都宮学の教科書を用いた授業を通して、郷土への愛情を育む。
- ・ 地域教材および人材の活用
- ・ 各学年活動展開計画の年計への位置づけ
- ・ 指導案および学習シートの活用と自校化